

# はるの たからもの



②

「これからもう一つとくうたんのこと、大事にするって約束するね。」  
そう言ってはるは 手のひらを差きし出だしました。

「はい、くうたん、これあげる。」

『仲良なかよしのしるし』だよ。

ぜっなたい失なくさないようにしようね。」

はるの手てには、きれいな貝かいがらがふたつ。

びわ湖こで見みつけた貝かいがらに、はるが絵えを描かいたものでした。

「あっ！はるちゃんとぼくの顔かおだ。」

キラキラ光ひかってきれいだなあ。

ありがとう。」

『仲良なかよしのしるし』のきれいな貝かいがらは、  
ふたりの宝物たからものになりました。

②



約束や決まりを守ることは、園児が小学校に上がる前に身に付けておきたい力のひとつです。社会生活を行う上での基本であり、消費生活においては、契約の内容やルールを理解する力につながります。約束や決まりを守ることは「責任ある消費者」としての態度・考え方を育む基本となります。

伝えたいこと  
身に付けたい力

約束や決まりを  
守ろう



③

そんなある日のこと……。

はるが、お父さんとおでかけしているとぬいぐるみを抱いた男の子が歩いていました。白い、ふかふかの羊のぬいぐるみでした。

「わあ、あの羊さん、まっさらで、ふっかふか。どこも汚れてないし、可愛いなあ。」

ねえ、お父さん見て、あの羊さん、すごく可愛いよ。私も、欲しいなあ。」

「でも、はるには、くうたんがいるよ。」

「うーん、だけど、くうたんはあんなにふかふかじゃないしなあ……。」

ふかふか羊さん、私も欲しいなあ。」

はるは、なかなかあきらめられません。

伝えたいこと  
身に付けたい力

欲しいものと必要なもの  
の違いに気付こう  
時には我慢をおぼえよう

ものが豊富にある今、欲しいもの（ウォンツ）と必要なもの（ニーズ）を区別して考える習慣づけが大事です。新しい物が本当に必要かどうかを考える時には、「同じようなものを持っていないかな?」「古いものを修理して使えないかな?」など、具体的な言葉で問いかけ、時には我慢することをおぼえるように促しましょう。こうしたことは、将来、金銭面を含めて計画的に生活を設計できる力につながります。

③





④

「ふかふか羊さん、可愛かったなあ。  
さわってみたくないなあ。」

ふかふか羊さんのおうちは、どのへんかなあ。」

さつき見た羊のぬいぐるみのことを考えて、  
はるは、ちょっとぼんやり。

「ねえ はるちゃん、つみきで遊ぼうよ。」

「ねえ、はるちゃん、一緒に絵本を読もうよ。」

くうたんが話しかけても、はるは気づいてくれません。

『仲良しのしるし』の貝がらも、

はるのものはテーブルの上にポツンと置かれたままです。





⑤

「この貝がら、失くさずに持ってしようって約束したのに……。」

くうたんは さびしくなって

ふたつの貝がらを並べてみました。

すると、はると くうたんが仲良く遊んでいるように  
見えました。

ふと、窓の外を見上げると、空に雲がふたつ  
並んで浮かんでいました。

「あの雲、はるちゃんとぼくのお顔に似ているぞ。

どこに行くのかなあ。まったく。」

くうたんは、ふたつの貝がらを持ったまま

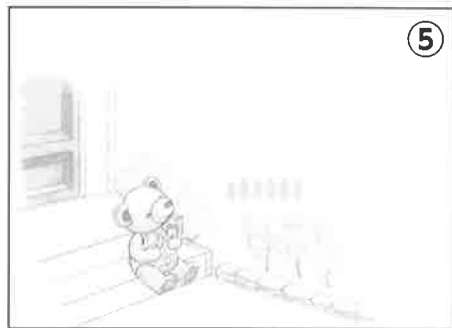
いつの間にか、外に出してしまいました。

そうして、雲を追いかけているうちに、

くうたんの足はだんだん汚れて

泥だらけになってしまいました。

⑤







⑥

はるは、ふかふか羊のことを考えて、  
窓の外をながめていましたが、  
しばらくして、空にくまの形をした雲を  
見つけました。

「ねえ、くうたん、

あの雲くうたんに似てるね。」

そう言って、はるは、くうたんに話しかけました。  
でも、くうたんからの返事はありません。

「あれっ！くうたんが、いない！」

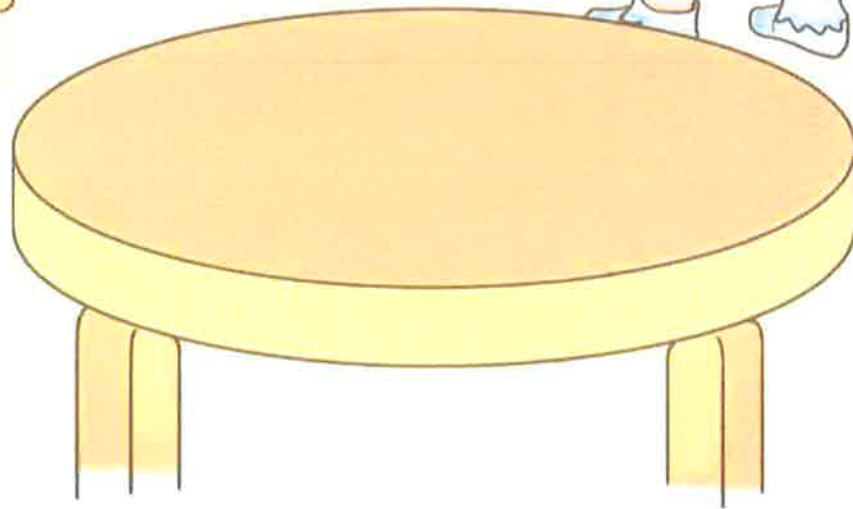
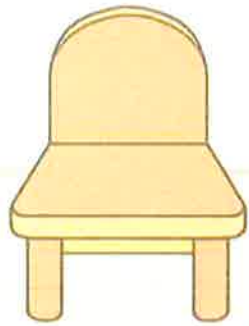
(よく見せて)

「さっきまでいたのに おかしいな。  
くうたん！くうたん！」

テーブルの上に置いていた、貝がらも、ありません。

(半分 抜いて (7枚目を見せながら))  
※右から抜く





⑦

(半分 抜いて (スポンジを半分隠して))

「お風呂かな? のぞいてみよう。」

「あつ、いやだ。」

くうたんの しっぱだ! 見つけた!

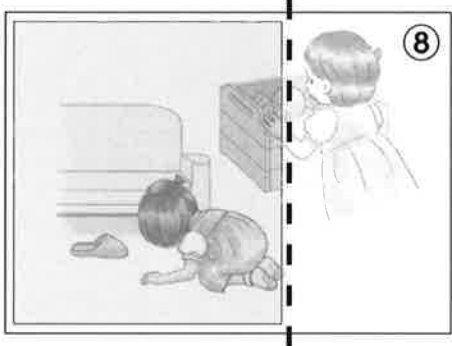
(全部 抜く)

「なあんだ、モコモコの スポンジだった。  
はるはさびしくなりました。」

「くうーたーん、どこに行ったのー!  
呼んでもやっぱり返事ありません。」

(少し 抜きながら)

※右から抜く





⑧

右に  
抜く

⑧ 少し 抜いて (ボールを半分隠して) ……

「おもちゃ箱の中かな？」

あ、くうたんの耳だ！ 見つけた！

⑧ 半分まで 抜いて (ボールを見せて)

「なあんだ、ボールだった。」

⑧ 4分の3まで 抜いて (スリッパを半分隠して) ……

「わかった、ソファの下でかくれんぼだ！」

あ、くうたんの手だ！ 見つけた！

⑧ 全部 抜く

「なあんだ、スリッパだった。」

台所も、トイレも、お部屋の中も。

何度も何度も探してみただけ

くうたんは いません。

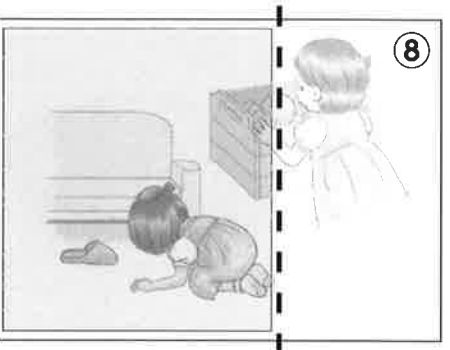
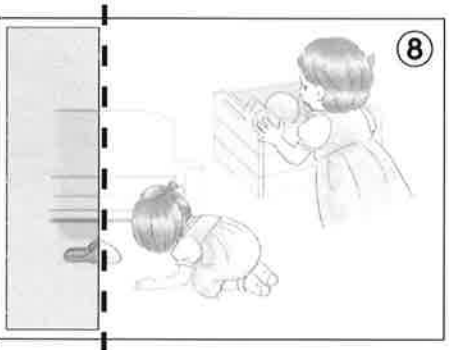
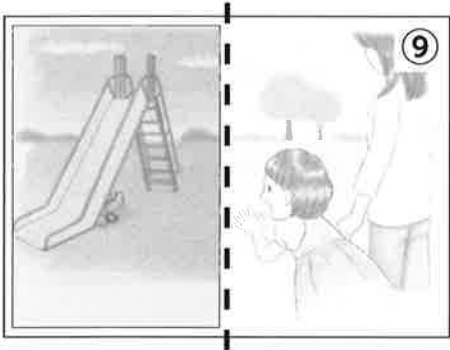
「くうーたーん。どこに 行ったのーん！」

「もしかして、ひとりでお外に行ったのかなあ。」

はるは だんだん心配になってきました。

⑨ 9枚目を半分 抜きながら

※右から抜く



ボール、スリッパそれぞれを、最初に半分見せた後、全部見せる



9

(半分 抜いた状態で)

困ったはるは、お母さんに言いました。

「お母さんあのね、くうたんがないの。」

お外に行っちゃったのかも。

だから、探すの手伝って。」

はるは、お母さんと一緒に、お庭やおうちの周り、  
保育園(幼稚園)までの道を、一生懸命探しました。

「くうたん、どこに行っちゃったの：。」

みんなで呼んでみましょう。「くうーたん！」

(全部 抜いて)

くうたんを探して、とうとう公園まで来ると、  
すべり台のかげから、モコモコした黒いものが見えました。

「あつ、くうたんかな？」

でも くうたんだったら、ビスケット色のはず。」

と、その時、何かがきらっと光るのが見えました。

「あっ！ あれは！ 『仲良しのしるし』だ！」

はるは 急いでかけ寄りました。

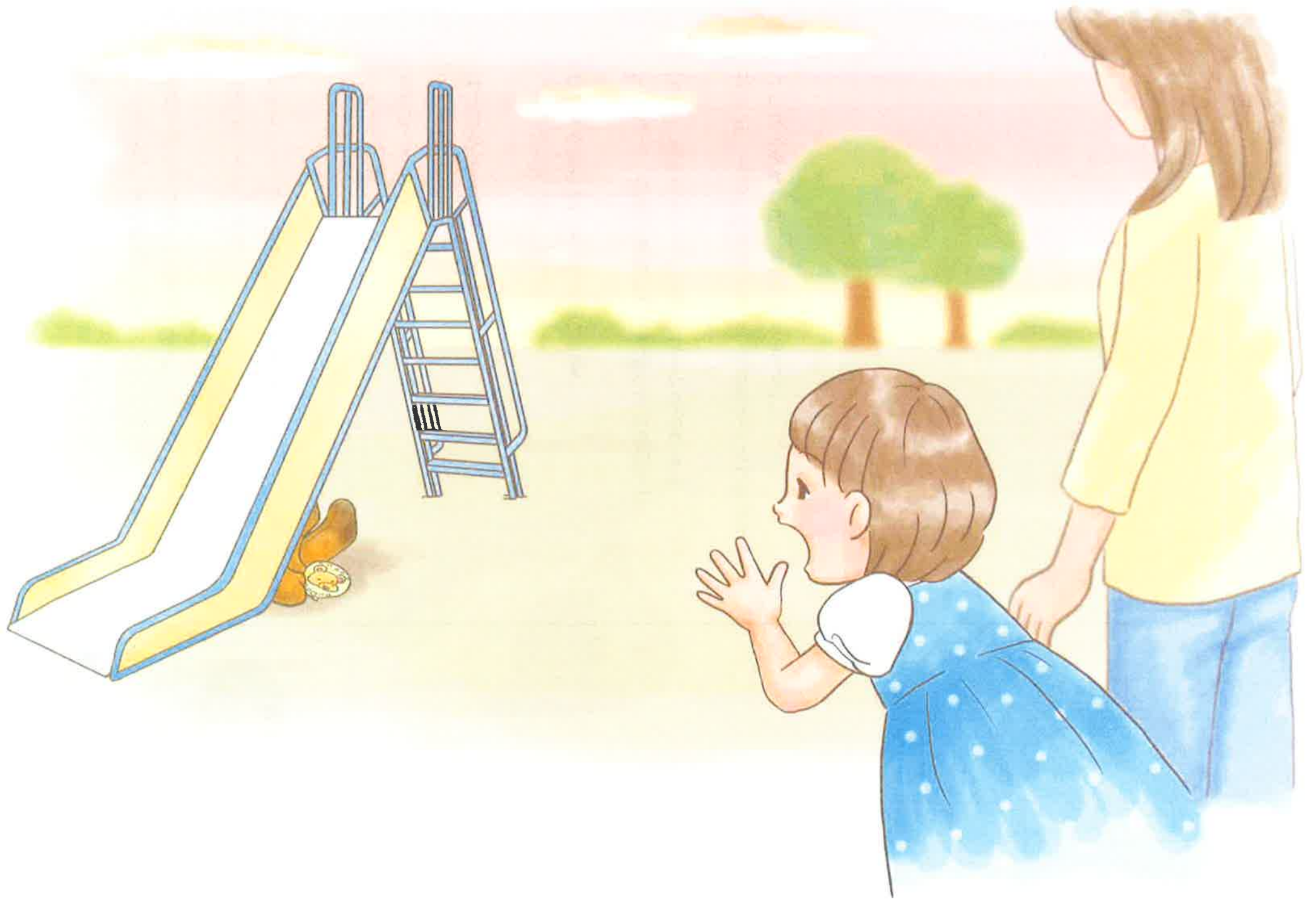
伝えたいこと  
身に付けたい力

困ったことがあつたら  
身近な人に伝えよう

幼児期は、大人が子どもの安全に注意を払うことが多いですが、起こったトラブルの原因を子ども自身が考えたり、行動の結果を想像できるように話しかけることも大切です。また、困った時には、その状況を周りの人に言葉で伝えることができる力を身に付けることも大切です。こうした力は、将来、契約トラブルや悪質商法などの消費者トラブルに遭遇した時に、周りとの協力しながら解決できる力につながります。







くうたんは、すべり台の後ろで、  
疲れて眠ってしまっていたのです。

はるは くうたんを、  
ぎゅーっと 思い切り抱きしめました。

「やっと、やっと、

くうたん 見つけた。

さびしくさせて、ごめんね。」

「いいよ、はるちゃん。

探しにきてくれて ありがとう。」

くうたんは汚れて、泥だらけ。

おなかや背中が、すり切れています。

「くうたん、貝がらを持ったまま眠っていたの？」

「うん。並べると、とっても楽しそうなんだよ。」

はるは、ふたつの貝がらをしっかりとポケットに入れて  
くうたんをおうちに連れて帰りました。





⑪

はるは、くうたんの  
汚れた体や足を洗ってあげました。

ゴツシゴツシ、あわあわ、シュツシュツシュツ

すると、くうたんは、

みるみるうちにきれいになっていきました。

そして、くうたんの濡れた体を、

タオルでやさしくやさしくふいてあげました。

「くうたん、すっごくきれいになったよ。」

「ありがとう、はるちゃん。」

でも、あれれ？

くうたんのお腹の ばんそうこうが はがれて  
小さな穴が開いています。

「くうたん、お腹が少し破れてる。  
どうしよう。」

はるは、考えました。

「そうだっ！」

伝えたいこと  
身に付けたい力

身の回りのものを  
大事にしよう

「ものを大事にする」ということはどういうことなのかを、具体的なエピソードで示しています。ここでは「汚れた体や足を洗ってあげる」「濡れた体を優しくふいてあげる」という行動を通して、子どもたちが「ものを大事にする」「ものに愛着を持つ」というイメージをつかめるよう表現しています。





⑫

はるは、小さくなった自分の服を、  
くうたんに着せてあげました。

そして、「仲良しのしるし」の貝がらを、  
くうたんの服につけてあげました。  
はるの貝がらは、お気に入りのポシエットに、  
くっつけてもらいました。

「さあ、今日は何して遊ぼうか？」

ふたつの『仲良しのしるし』が、きらきらと光っていました。

おしまい。

伝えたいこと  
身に付けたい力

身の回りのものを  
大切にしよう

ここでは「古くなったものを捨てずに使う」「ものの使い方を工夫する」ということを、具体的なエピソードで示しています。こうしたことから、自分の生活と身近な環境との関わりに気づき、ひいては持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践する態度につながります。

ストーリー全体を通して「身の回りのものを大事にする」思いを、ぜひ子どもたちと一緒に共有してください。

⑫





# はるのたからもの

①

くうたんは、くまのぬいぐるみ。  
ビスケットみたいな色をしています。  
はるが生まれたとき、おばあちゃんが  
プレゼントしてくれました。

はるとくうたんは、とっても仲良し。  
ごはんもいっしょ。寝るのもいっしょ。

「なんだかくうたん、小さくなったね。」  
「はるちゃんが大きくなったんだよ、  
だって、はるちゃん、もう5歳だもんね。」

くうたんの体の破れそうなどころには、  
ばんそうこうを貼ったり、  
寝るときには、おふとんをかけてあげたり…。

はるは くうたんを 大事に大事にしていました。

## 紙芝居で伝えたいこと

- この紙芝居は、幼児期用の「消費者教育」教材です。
- 「消費者教育」とは、消費者が多くの物やサービス、情報の中から適切に選択・判断できる力を身に付け、生活の中で生かす力を育むための学びです。将来、自立した消費者となり、豊かで安全・安心な消費生活を送るためには、幼児期からの「消費者教育」が必要です。
- この紙芝居では、「消費者教育」の中でも、特に幼児期に身に付けてほしい「身の回りのものを大事にする」ということをテーマとしています。
- また、その他にも幼児期に身に付けてほしい以下のポイントを、ストーリーの色々な場面に取り入れています。

### 紙芝居の主テーマ

#### 「身の回りのものを大事にしよう」

〈その他のポイント〉

- 約束や決まりを守ろう
- 欲しいものと必要なものの違いに気付き、時には我慢することをおぼえよう
- 困ったことがあったら身近な人に伝えよう

### はるのたからもの

平成29年(2017年)2月発行

発行 滋賀県県民生活部県民活動生活課  
〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1

監修 菅 眞佐子 (滋賀大学教育学部教授)

企画・制作 公益財団法人関西消費者協会

本書制作にあたり、御協力をいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

○無断転載を禁じます。

### はるのたからもの

①

